

連絡事項+自由討議のためのメモ

(中大・佐藤)

●連絡事項

コンクリート委員会から

佐藤 先生

丸山久一です。

ご連絡が遅れましたが、荷重連合小委員会の委員について、コンクリート委員会から以下の2名を推薦することになりました。よろしくお願ひいたします。

連絡委員：三島 徹也(前田建設工業)

tmishima@jcity.maeda.co.jp

専門委員：佐藤 勉(鉄道総合技術研究所)

ben@rtri.or.jp

なお、当該委員会で、活動内容と予算計画書を作成して頂き、それを各親委員会に提案して頂ければ、コンクリート委員会としても審議が可能となります。

構造工学委員会からは、連絡委員・専門委員とも「一任」の由。(正式決定までは佐藤が務めます)

☆活動内容と予算計画書の作成 (06.09 現在未了)

「創設の主旨」はOK。「活動内容」を「予算計画(各親委員会に予算請求)」に結びつける論理：<集まって議論してる>だけでは予算請求しにくい。旅費は自弁。会場費・会議費も基本的にはなし。で、「分野横断的に荷重の考え方とデータの議論をしているので、資料集をまめに作る必要がある」とでも述べるか?←そういう活動内容の「縛り」をつけていいか?

●自由討議のためのメモ

- ・ 委員会活動の、いわゆる5W1Hについて、できるだけ共通イメージを醸成したい。
- ・ 「Who/When/Where」はまあいいでしょう。
- ・ 「What?」勿論「荷重」「作用」をやる。でもその範囲は?目次構成をどの段階で固めるか。
- ・ 「Why?」純粋に、興味があるから、という委員もあるが、やっぱりどういところで使ってもらうか、というマーケットの分析も重要。
- ・ 「How?」情報収集、分析の方法論。
- ・ 「What?」各論
 - リストアップ方針「地震」「風」「地盤」「環境作用」「衝撃」は既定路線でメンバーもあり(充実)。
 - 「地盤」の位置付けは難しいが、「沈下(特に不等沈下)」は上物(耐久性)にとって影響の大きい「作用」。「主働土圧」は当然だが、「受働土圧」は?
 - 資料0-3では「雪」「温度」「波」も、当然入れるものであろう。
 - 「爆発」「火災」「飛来物」は?(ここでの主たる関心は変動作用。偶発作用にどこまで踏込む?)
 - 細かい話。「どこからか伝わってくる微小振動」などは、使用限界用荷重としても無視していい?
 - 細かい話。地表面電位などは(杭の耐久性など)
 - 細かい話。「鋼構造架設設計指針」(1978)には「摩擦力」や「不均等荷重」なども書かれている。
 - 多分3年間で「細かい話」の網羅は不可能。ただ、「やれそうなことに絞って目次を示す」のか「やれなくとも項目だけ挙げて、「どこそこに記述があるので参考にせよ」ぐらいの処理をするか?(事典的、

インデックス的性格になる)

- 重要な話。「死荷重(固定荷重)」「活荷重(移動荷重)」は?
- 特に活荷重は「全国一律(道路橋の A, B 種別のみ)原則」に対して、「データに応じてやれ」というと、政治的に厄介。
- 正面衝突を避けるために、「活荷重」は節だけ設けて、「どこそこのしかるべき資料を見よ」でもいいのか、とも思われる。で、活荷重のような「重い」部分をそうするなら、他の細かい荷重も、インデックス的にリストアップだけしておくのも、ありかと…
- 「何を」の次は「どこまで」；荷重係数の提示までやるのか、という議論も前回あったが、本委員会としては、やはり「考える材料の提示」が主で、荷重係数は「例題」としての扱いだらう。
- ISO なら記述に normative と informative の仕分けがあるが、ここの報告書は全て informative. その中でも normative 色の濃淡はあるので、「例題」は色薄く、自由に。
- ・ 「Why?」各論
 - 性能設計のための荷重資料という性格は重要。既出「性能設計指針」の類で、荷重がどう扱われているか、調査してもよい。また「こういうものが出来ると、荷重の章の代替物として座りがよい」という意見を求めてもよい。連合小委員会としていろいろな委員会とリンクする意義もここにある。
- ・ 「How」各論。
 - これまでは「閉ざされた各組織のデータの門をいかにこじ開けるか」が重要だったが、近年顕著に改善。
 - で、出来れば、「ここにこういう情報のソースがありますよ」という話を皆で持ち寄り、情報の共有化をはかるのがいいのではないか。自分の分野では「常識」でも、一歩離れると意外とわからないものである。